

## 歴史点描 11 網干の陰陽師 2

播州室津にて陰陽師澤山右近が地相・家相を占ったのが慶應3年11月中旬、12月9日には早くも王政復古の掛け声のもと明治政府が誕生した。神道国家を目指す新政府から陰陽道廃止の布令<sup>ふれ</sup>が出されたのが同じく明治3年(1870)、通達を受けた右近は時代の変革をすばやく察知したのだろう、長年馴れ親しんだ右近の名を乾華<sup>かんか</sup>と改名し尼崎藩に差し出した。尼崎藩では(陰陽道取締制令役)の任にある右近の宗教活動に支障のないようにとの配慮から土御門家に通達するが、生憎<sup>あいにく</sup>6月21日のみの日付である。

乾華はなぜ尼崎藩に改名を届け出たのだろうか、疑問は『尼崎市史』によって解けた。尼崎藩は江戸期、西播磨粟郡31カ村赤穂郡31カ村に飛び地領があり、右近にとっては瀬戸路<sup>せとみち</sup>・揖保川舟運を利用して難儀なく宗教活動が出来る距離である。改名後も藩内での動きを容易にするための手段を講じた。

6月表記の年代を推測すると明治4年7月に廃藩置県制度が施行されたのだから、ギリギリの4年(6月21日)だった可能性もたれる。廃仏毀釈の難を避けるため、庚申信仰の本尊青面金剛像を大覚寺に預けたのもこの年である。

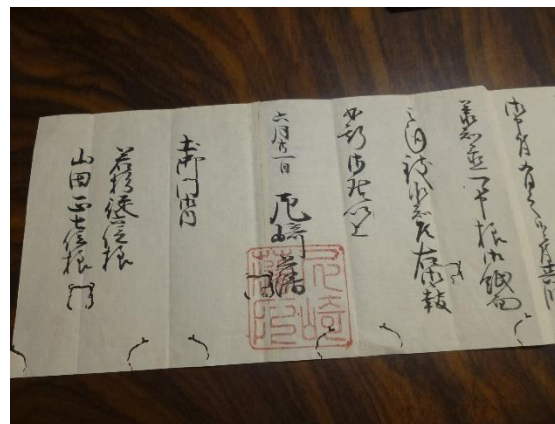
今に続く右近家はその後、京都醍醐寺に縁<sup>えにし</sup>を求め修験道大峯山参詣への講を立ち上げ、常に人々を先導していた。

網干歴史講座

田中早春



昭和の頃の祈禱札



尼崎藩は朱印入りで土御門家に送った